

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する人間性豊かな人格の形成をめざす。生徒と教職員との信頼関係をもとにした専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。

1. 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる。
2. 協調性、規範意識を身につけ、周囲から求められる社会人を育てる。
3. 地域社会の中での存在意義を高め、生徒が誇りをもてる学校づくりを進める。

2 中期的目標

1. 社会の中で主体的に生きる力を育てる
 - (1) 基礎的・基本的な学力の育成
 - ア ICT活用を進め、基礎学力の充実を図る。
 - イ 授業内容・授業形態の工夫により授業改善を図り、確かな学力を身につけさせる。
※生徒向け学校教育自己診断における「授業に関する満足度」の肯定率80%以上を維持する。(H29年度80.3%、H30年度83.0%、R01年度81.8%)
 - (2) 資格取得に対する意欲を高め、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成
 - ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能取得を図る。
※卒業生の資格取得率100%(一人一つ以上)を維持する。(H29年度70.0%、H30年度94.1%、R01年度100%)
 - (3) 在学中の就労を促進するとともに、生徒の希望する進路実現の支援体制の充実
 - ア 未就労生徒に対して、個別指導と個別支援による就労促進を行う。
 - イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する。
 - ウ 自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育成する。
※学校斡旋就職を支援し、正規就職希望者90%以上、就職内定率100%を目標とする。
(正規就職希望者 H29年度93.0%、H30年度93.3%、R01年度100% / 就職内定率 H29年度100%、H30年度100%、R01年度100%)
2. 周囲から尊敬される社会人を育てる
 - (1) 授業規律の確立
 - ア 組織的な指導体制により、良好な学習環境と授業規律の確立を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における「良好な学習環境」の肯定率80%以上を目標とする。(H29年度69.2%、H30年度77.5%、R01年度75.0%)
 - (2) 協調性や社会性の育成
 - ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る。
※1年次生の進級率70%以上を目標とする。(H29年度47.4%、H30年度92.3%、R01年度61.5%)
3. 誇りをもてる学校づくり
 - (1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得
 - ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施など、地域から見える、特色ある学校の取組みを推進する。
※保護者向け学校教育自己診断における「本校の特色ある取組み」の肯定率90%以上を目標とする。(H29年度85.7%、H30年度91.7%、R01年度85.7%)
 - (2) 広報活動の充実により、学校の取組みを広く伝える
 - ア 学校ホームページの充実、地域自治会等への広報を積極的に展開する。
※学校見学会、公開講座等への参加者について、年間延べ50名以上を維持する。(H29年度45名、H30年度54名、R01年度60名)
 - (3) 人材育成により、優れた教育の提供
 - ア 生徒のニーズに合致した、特色ある教育課程と優れた指導体制づくり。
※新教育課程の検討(R04年度より実施)と指導体制の確立を目標とする。
4. 働き方改革への取組み
 - (1) 分掌・委員会等の会議の目的を明確にし、効率化を図る
 - ア 会議資料のデータ化、ICT活用により効率的に運営する。
 - (2) 定時退庁の促進、一斉閉庁日の活用、ならびに有効な休暇取得の促進
 - ア 教職員の業務の負担軽減化・分散化を図り、健康増進・ストレス解消に向け、働きやすい職場環境を実現する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|--|---|
| ○学校教育自己診断について *肯定率(%)H30→H31→R02 「◎」「○」「△」は、数値または変化に対する学校の評価 1 学校生活 ・この学校には他の学校にない特色がある 85.7→67.5→79.5(○) | ○第1回(6/19) ・部活動の加入及び活性化の要望 ・新型コロナウイルス感染症による生徒の就業(アルバイト)への影響を懸念 ・夏季休業の短縮について、授業環境面(工場実習など)による健康への影響を考慮すべき |

府立茨木工科高等学校 定時制の課程

| | |
|---|--|
| <p>・授業はわかりやすく楽しい 81.0→81.8→64.1(△)</p> <p>※すべての生徒に対応できる授業改善の取組を恒常的に行う。</p> <p>2 学習指導</p> <p>・授業で自分の考えをまとめ発表する機会がある 54.8→63.1→64.1(○)</p> <p>・教え方に工夫している先生が多い 73.8→78.9→77.0(○)</p> <p>・ビデオなどの視聴覚機器やコンピュータを使う機会がある 82.9→83.8→89.7(◎)</p> <p>※授業改善、学力向上に対する成果が現れている。生徒が主体的に授業に参加するための授業改善の取組が必要。</p> <p>3 生徒指導</p> <p>・先生はお互いに協力し合い、責任をもって授業やその他の仕事に当たっている。 73.8→91.9→76.9(○)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの行事を縮小することになったことが、生徒の活動意欲を減少させる結果となっている。しかしながら、授業・行事等において、教職員が一丸となって取り組む姿勢は維持できている。</p> <p>4 進路指導</p> <p>・将来の進路や生き方について考える機会がある。 82.5→79.0→76.9(○)</p> <p>・学校は、進路についての情報を提供している。 81.0→83.8→84.6(○)</p> <p>※キャリア教育を中心とした進路指導、個に対応した指導の成果が現れている。</p> <p>5 その他</p> <p>・学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている。 75.6→86.5→66.7(△)</p> <p>※オンライン授業等の準備により、連絡体制に混乱があると考えられるため、次年度に向けて整備する。</p> <p>・【保護者】学校は保護者や地域の人が授業に参加する機会を設けている。 66.7→83.4→77.7(○)</p> <p>・【保護者】この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある 53.3→62.5→評価せず</p> <p>※保護者の来校を保護者懇談に限定したため評価できない。</p> | <p>・卒業生の就業状況について現状説明</p> <p>○第2回(11/16)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症による臨時休業後の授業確保の状況の確認。</p> <p>・夏季休業の短縮による影響について(現状確認)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症における検査体制について(対象者特定の考え方など)</p> <p>○第3回(2/5)</p> <p>・高校生を取り巻く通信環境は、「スマホ」中心となっており、就職後にパソコン(キーボード)操作に慣れることに時間を要する場合がある。高校生でパソコンの操作能力を高めるよう指導してほしい。</p> <p>・パソコンを使えない高卒生徒が一定数存在しているので、メールやデータのやり取りができるように指導する必要性を感じている。</p> <p>・就職について、長期にわたり勤めることを念頭に選択することは重要である反面、会社の寿命は17年前後ともいわれる時代であり、2～3社の転職の可能性あり。</p> <p>・感染症に影響を受けた1年であるが、先生方はモチベーションを切らさずに指導していることに感謝している。また、1年生の在籍状況が大きく変化していない状況を評価する。次年度は必ず行動が変化するので、新入生の増加に期待している。</p> |
|---|--|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------------------|---|---|---|--|
| 1. 社会の中で主体的に生きる力を育てる | <p>(1) 基礎的・基本的な学力の育成 ア 授業での効果的な ICT 活用と基礎学力の充実</p> <p>(2) 資格取得に対する意欲を高め、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成 ア 各種の資格取得を勧め、学習意欲の喚起と有用な技能取得を図る</p> <p>(3) 正規就職の拡大 ア 個別指導と個別支援による就労指導</p> | <p>(1) ア①ICT 機器の活用や、主体的・対話的な授業となるよう授業改善を行う。また、可能な限り教材の共有化を図り、授業準備等の業務の負担軽減を行う。 ②授業において、確認テスト等を実施し、基礎学力の定着を目標とする。</p> <p>(2) ア①溶接技術、CAD、計算技術等、授業内容と関連した資格取得への指導（講習・個別指導）を充実させる。</p> <p>(3) ア キャリアコーディネータ等との連携による求人開拓、個別指導を継続的に実施・強化し、卒業時に正規就職できるよう支援を行う。</p> | <p>(1) ア①ICT 機器・視聴覚教材を活用した授業を実施 生徒向けアンケート「ICT を用いた授業が実施できている」における肯定率 80%以上を維持 (R01-83.8%) ②授業において確認テストを繰り返し実施し、単位取得に繋ぐ。 生徒向けアンケート「授業が楽しく分かりやすい」における肯定率 70%以上を維持 (R01-81.8%)</p> <p>(2) ア①資格取得を奨励し、取得生徒の増加を図る。 卒業年次の資格取得率 100%を維持する。 (R01-100%)</p> <p>(3) ア・就職希望生徒の応募前職場見学 100%を維持 (R01-100%) ・正規就職希望者 80%以上、就職内定率 90%以上 (正規希望 R01-100%、内定率 R01-100%) ・進学志望生徒の合格率 100%を目標とする。 (R01-該当者なし)</p> | <p>(1) ア①生徒向け学校教育自己診断「ICT を用いた授業が実施できている」における肯定率は 80%以上を維持。(R02-89.7%) (◎) GIGA スクール構想に備え、PC 等を追加購入。今後不足している教員用端末等の整備を図りたい。 ②生徒向け学校教育自己診断「授業が楽しく分かりやすい」における肯定率 70%以上 (R02-64.1%) (△)</p> <p>(2) ア①卒業年次の生徒の資格取得率 (R02-100%) (◎)</p> <p>(3) ア・就職希望生徒の応募前職場見学 (R02-100%) (◎) ・正規就職希望者 (R02-100%) (◎) 就職内定率 (R02-100%) (◎) ・R02 年度進学希望者なし</p> |
| 2. 周囲から尊敬される社会人を育てる | <p>(1) 授業規律の確立 ア 組織的な指導体制と良好な学習環境、授業規律の確立 イ 生徒が主体的に授業に参加し、集中して取り組む姿勢を育成</p> <p>(2) 協調性・社会性の育成 ア 学校生活の魅力を高め、集団生活への参加を促進</p> | <p>(1) ア①全教職員により生活指導体制を確立し、良好な学習環境を維持する。 ②規範意識、社会性育成のための講座、ICT 機器の利用方法、情報活用能力等の指導機会を適宜設け、社会人としてのマナーやモラルを主体的に身に付けさせる。 ③高校生活支援カードを活用し、家庭及び中学校・外部機関との連携を深め、きめ細かい支援体制を充実させる。 イ①授業中の発表や話し合いの機会を多くする。</p> <p>(2) ア①部活動を活性化し、積極的な参加を促す。 ②生徒秋季発表大会などに積極的に参加し、成果発表などを通して、生徒の能力を引き出す。</p> | <p>(1) ア①授業規律を確立し、落ち着いた雰囲気のある学校づくりを行う。 生徒向けアンケート「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」における肯定率 5%向上を目標とし、令和 2 年度 90%以上を維持する。 (R01-91.9%) ②欠席の多い生徒(年間 30 日以上)、中退者の減少 ・欠席の多い生徒 10 名以下 (R01-13 名) ・年間退学者 7 名以内を目標 (R01- 7 名) ・懲戒件数 5 件以下を目標 (R01-14 件) ③中学校・外部機関との連携を強化し、中高連絡会参加・学校訪問 20 校以上実施を維持し、本校の教育内容を周知する。 (R01-30 校) イ①「主体的・対話的で深い学び」への取り組み。 生徒向けアンケート「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」における肯定率 60%以上を維持 (R01-63.1%)</p> <p>(2) ア①部活動に参加する生徒を増加し、活動を支援 ・定通実業総体を目標とする (R01 不参加) ②秋季発表大会の参加維持 ・生活体験発表 (R01 不参加) ・舞台発表 (R01 軽音楽部出演) ・展示発表 (R01 写真部出演)</p> | <p>(1) ア①生徒向け学校教育自己診断「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」における肯定率は 15.0%減少した。次年度は 90%以上を目標とする。 (R02-76.9%) (△) ②欠席の多い生徒(年間 30 日以上)、中退者の減少 ・30 日以上の欠席 (R02-5 名) (◎) ・退学者 (R02-5 名) (◎) ・懲戒件数 (R02-4 件) (◎) ・1 年次生の進級率 (R02-87.5%) (◎) 授業規律について、昨年度より改善を進め、成果がみられる。次年度はさらに改善を進める。 ③中学校・外部機関との連携を強化し、中高連絡会・学校訪問 20 校以上を維持。 (R02-35 校) (◎) 学校訪問等により、本校の特色や指導・支援体制の理解をより深めたい。 イ①生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」における肯定率は 60%以上を維持。 (R02-64.1%) (○) 教科による特性があるためすべての授業において実現できていない。学校生活を通して、生徒が活躍できる場面を創出できるよう取り組みたい。</p> <p>(2) ア①・軽音楽部、自動車部、写真部は部員増加、卓球部を新設。 (◎) ・新型コロナウイルス感染症の影響で、定通実業総体中止 ②・生活体験発表(不参加) ・舞台発表(不参加) ・展示発表：写真部 5 名出席 (教育振興会奨励賞受賞) (◎)</p> |
| 3. | (1) 地域連携を進め、学校 | (1) | (1) | (1) |

府立茨木工科高等学校 定時制の課程

| | | | | |
|---------------|---|--|--|---|
| 誇りをもてる学校づくり | <p>への高い評価を獲得 ア 生徒会による地域活動の実施、公開講座の実施</p> <p>(2)学校の取組みを広報 ア 地域における広報活動の展開</p> <p>(3)優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり イ 安全安心な学校づくり</p> | <p>ア①生徒会主体となり、地域連携活動を企画する。 ②教員による小学生対象の「夏休み工作教室」を継続実施する。 ③幼稚園・保育所(園)・小学校等の公共機関に、実習作品の寄贈を継続して行う。</p> <p>(2) ア①学校行事を保護者ならびに地域に公開し、広報活動を展開する。 ②保護者・生徒のニーズに合致した学校ホームページの改善</p> <p>(3) ア①工業系科目の充実を図り、生徒が意欲を持って取り組める教育課程の編成を進める。 ②校内授業相互公開、研究授業参加、専門研修派遣を実施し、授業力の向上と、指導内容の改善を図り、優れた学習環境を実現する。 ③系列会議を通して、生徒状況の把握、授業改善の交流などを進める。 イ①防犯防災訓練、交通安全教育ならびに研修の実施 ②校内安全点検の実施</p> | <p>ア①生徒会活動の活性化、地域連携の模策。 生徒向けアンケート「地域や保護者と関わる機会がある」における肯定率 70%以上。(R01-69.4%) ②「夏休み工作教室」の参加者 20 名以上。(R01-26 名) ③公共機関への作品寄贈 5 件以上を維持。(R01-10 件)</p> <p>(2) ア①学校行事(体育祭・文化祭等)への保護者・地域住民の参加者数延べ 50 名以上。(R01-60 名) ・保護者向けアンケート「授業参観などの学校行事に参加した」における肯定率約 10%向上を目標とし、令和 2 年度には 70%以上とする。(R01-62.5%) ②ホームページ更新月 3 回以上、教員・准校長ブログでの情報発信 (R01-78 回)</p> <p>(3) ア①新教育課程の編成(令和 4 年度実施)。生徒向けアンケート「本校には他校にない特徴がある」における肯定率 80%以上。(H31-67.5%) ②校内授業相互公開週間の実施、授業に関する研修への派遣を行う。(延べ 30 名以上)(R01 年度延べ 30 名) ③経験年数の少ない教員を中心とした研究授業を年 2 回以上実施。(R01-1 回) 生徒向けアンケート「教え方に工夫をしている先生が多い」における肯定率 80%以上。(R01-78.9%) イ①生徒向け訓練・講習(年 3 回)及び心肺蘇生法教員研修の実施。 生徒向けアンケート「災害時の行動について知らされている」における肯定率 90%以上。(R01-86.5%) ②機械工場、自動車工場の定期安全点検および産業医による巡回点検を実施。安全な学習環境を維持。(年 2 回実施、産業医巡回実施)</p> | <p>ア①・生徒向け学校教育自己診断「地域や保護者と関わる機会がある」(R02-評価せず) ・保護者向け学校教育自己診断「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」における肯定率は 14.7%向上。(R02-100%) (◎) ②新型コロナウイルス感染症の影響で「夏休み工作教室」は中止となった。新たに就学前施設から依頼を受け、教材(実施説明書等添付)を提供した。事後に好評であった旨の実施報告を得た。(◎) ③茨木市保育幼稚園総務課を通じ、生徒作品「木製ベンチ(15 台)」を幼稚園 7 園に寄贈。(R02-7 件) (◎)</p> <p>(2) ア①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校行事への保護者等の来校をお断りした。(R02-評価せず) ②ホームページ更新 105 回 (◎) 臨時休業期間に新型コロナウイルス感染症関連の情報を発信したことを契機に、学校ホームページでの情報提供ができています。</p> <p>(3) ア①生徒向け学校教育自己診断「本校には他校にない特徴がある」における肯定率 12.0%向上。(R02-79.5%) (◎) 次年度 85%以上を目標とし、本校で学ぶ意義を定着させたい。 ②授業公開週間を年間計画に位置付け、教員相互授業見学を促進した。各種研修への積極的な参加については、今年度中止または WEB 研修が多数となったため、参加数による評価せず。(R02-評価せず) ③経験年数の少ない教員による研究授業を 6 回実施 (◎) 生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」における肯定率 1.9%減少。さらなる授業改善に努める。(R02-77.0%) (○) イ①生徒向け訓練、講習を年 3 回実施。(○) 生徒向け学校教育自己診断「災害時の行動について知らされている」における肯定率 19.8%減少。(R02-66.7%) (△) オンライン授業等により、連絡体制に混乱が生じているため、次年度に向け整理する。 ②機械工場、自動車工場の年度内 2 回の安全点検及び産業医を伴った巡回点検を実施。次年度も安全で安心な学習環境を維持していきたい。(○)</p> |
| 4.働き方改革への取り組み | <p>(1)会議の目的を明確にし、効率化を図る ア 会議資料のデータ化、ICT 活用により効率的に運営</p> <p>(2)定時退庁の促進ならびに有効な休暇取得の促進</p> | <p>(1) ア情報の共有を進め、業務の効率化を図る。</p> <p>(2) ア業務の分散化を図り、健康増進・ストレス解消に向け、働きやすい職場環境を実現する。</p> | <p>(1) ア・職員会議等の資料を事前に関覧できる体制の構築。教員向けアンケート「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の情報連携や意見交換の場として有効に機能している」(R01-77.8%)</p> <p>(2) ア・教員向けアンケート「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(R01-77.7%)</p> | <p>(1) ア 教員向け学校教育自己診断「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の情報連携や意見交換の場として有効に機能している」の肯定率 2.2%向上。(R02-80.0%) (○)</p> <p>(2) ア 教員向け学校教育自己診断「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定率 6.3%向上。(R02-84.0%) (◎)</p> |